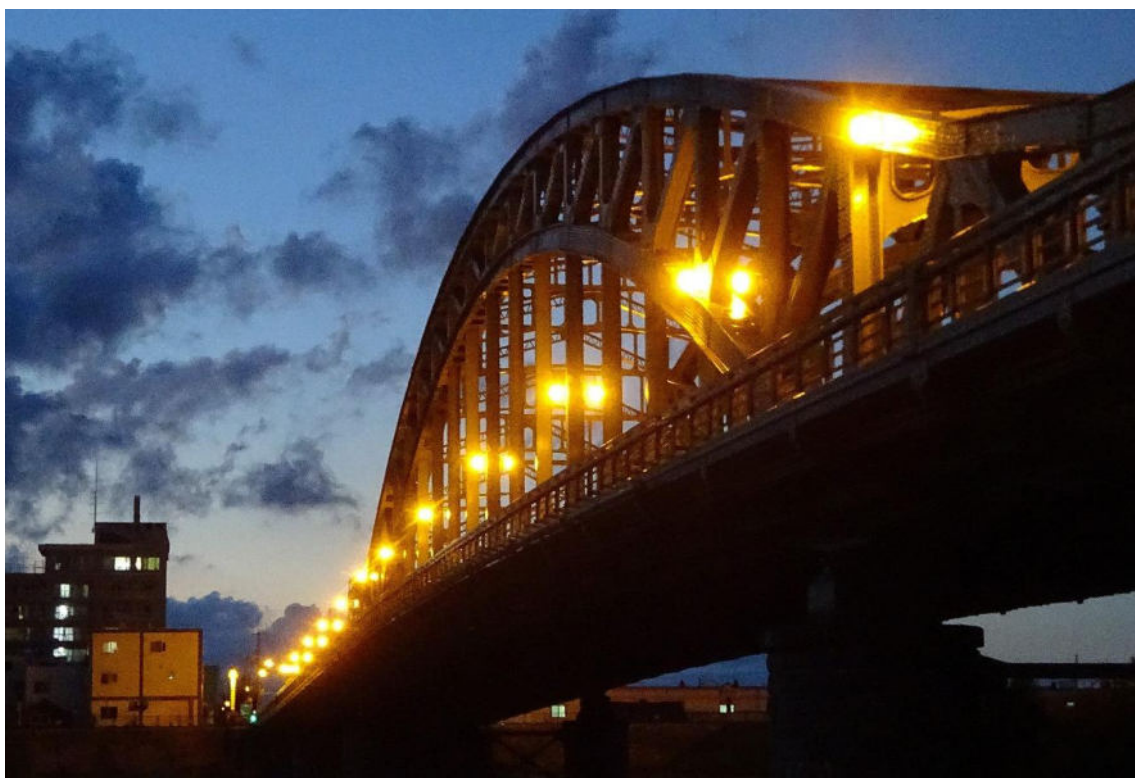


2024 年度 あさひかわオープンカレッジ連携講座 報告集



[撮影] 旭川ウェルビーイング・コンソーシアム教育コーディネーター白井暢明

一般社団法人 旭川ウェルビーイング・コンソーシアム

共催：旭川市教育委員会

刊行にあたり

本年度も「あさひかわオープンカレッジ」を無事に開催することができたことを喜びたい。本講座は、旭川市と近郊地域に住む人々を対象に、誰もが生涯を通じて学び続ける機会を提供することを目的としている。年齢や環境を問わず、新たな知識や技能を習得し、自己実現を目指す場として根付いたこの取組みは、「生涯学習」の理念を体現するための重要な柱である。

旭川市は、北海道の中核を担う地方都市として豊かな自然と歴史を有するが、同時に人口減少や高齢化、若年層の流出といった課題にも直面している。こうした状況下で、市民一人ひとりが学びを通じて自らを成長させ、地域社会に貢献する力を養うことが不可欠である。本講座が地域の持続可能性を支える人材を育むための基盤として、その役割を果たせるのだとすればこれほどの喜びはない。

本講座にも世代交代の流れは確実に起こっている。若い世代が積極的に講座に参加し、また講師としても活躍する姿が見られつつある。これにより、従来の形式にとらわれない新たな学びの形が生まれ、多様な世代が交流する場としての意義が深まっていると信じる。このような世代を超えた知の継承は、地域社会の発展に向けた希望の芽吹きである。

本報告集が、今後の「あさひかわオープンカレッジ」の発展に寄与するとともに、旭川市の生涯学習がさらに充実する一助となることを願っている。最後に、熱意を持って講義を支えてくださった講師の皆さま、意欲的に参加した受講者の皆さま、そして運営に携わった全ての方々に深く感謝を申し上げる。

旭川ウェルビーイング・コンソーシアム
連携公開講座等事業部会 部会長
北海道教育大学 教授 十枝内康隆

目次

第1回「地域包括ケアシステムと旭川医科大学看護学科『地域包括ケア論』の活動 ～住み慣れた土地で暮らし続けるために～」	
旭川医科大学 教授 升田 由美子	… 2
第2回「個人情報保護制度の基本～民間事業者から町内会まで～」	
旭川市立大学 准教授 村尾 太久	… 4
第3回「旭川に必要な誰もが楽しい運動理論『コーディネーション理論』を体験しよう ～スポーツ手遊び&スポーツスタッキング編～」	
旭川市立大学短期大学部 准教授 赤堀 達也	… 6
第4回「医師で開拓者の“関寛齋”の足跡をとおして、近現代の北海道を考える」	
旭川市立大学 名誉教授 竹中 英泰	… 8
第5回「楽しい哲学—哲学の特技＝常識を疑おう！—」	
旭川工業高等専門学校 名誉教授 白井 暢明	…10
第6回「ユネスコ創造都市ネットワーク～デザイン都市旭川とは？～」	
旭川工業高等専門学校 教授 浜田良樹	…12
第7回「北国の住まい～旭川と北欧～」	
建築家／東海大学 名誉教授 大矢 二郎	…14
第8回「幼児は“できること”を通して何が“できる”ようになっているのか？ —運動能力の向上に伴う自我の発達—」	
北海道教育大学旭川校 准教授 小谷 克彦	…16
「あさひかわオープンカレッジ」アンケート実施結果	
旭川ウェルビーイング・コンソーシアム事務局	…18

「地域包括ケアシステムと旭川医科大学看護学科『地域包括ケア論』の活動 ～住み慣れた土地で暮らし続けるために～」

2024年6月7日（金）14：00～15：45

旭川医科大学 教授 升田 由美子

少子高齢化が進む中、住み慣れた地域で安心して暮らせる仕組みとして「地域包括ケアシステム」が推進されています。本講座では、このシステムの概要と、旭川医科大学医学部看護学科が地域包括ケアの実現に向けて取り組んでいる「地域包括ケア論」について紹介しました。

1. 少子高齢化の現状と課題ならびに旭川市の状況

日本の総人口に占める65歳以上の人口割合は、2018年8月に3,530万人を超え、2040年には3,920万人になると推計されています。この少子高齢社会に伴い、医療・介護の需要がひっ迫することが懸念されています。旭川市も全国と同様に高齢化が進んでおり、2023年における高齢化率は25.2%です。2025年には、65歳以上の人口が初めて10万人を超えると推計されています。このような厳しい状況をふまえ、厚生労働省は『地域包括ケアシステム』を推進しています。

2. 地域包括ケアシステムとは

地域包括ケアシステムは、医療、介護、福祉、保健などを一体的に提供することで、住み慣れた地域で最後まで自分らしい生活を送れるように支援する仕組みです。主な柱は、住まい、医療、介護、介護予防、生活支援であり、これらが一体的に提供されるシステム構築を目指しています。このシステムの構築には国や自治体が提供する「共助」「公助」とともに、住民自身が主体的に健康生活に取り組む「自助」「互助」が重要とされています。

3. 地域包括ケア論

旭川医科大学医学部看護学科では、地域包括ケアシステムの理念と実践方法を学び、地域住民の健康増進に貢献できる人材育成に努めています。4年間を通し教育プログラム「地域包括ケア論」を構築し、体系的に学習するカリキュラムを展開しています。

学生は、4年間担当の地域（緑が丘・西神楽・神楽）で地域活動に参加し、地域住民と直接交流しながら、地域包括ケアシステムに関する現状把握と課題探求を行っています。

3年次には担当の地域で「健康セミナー げんき種」として地域住民の健康増進につながる活動を行っています。健康チェック（握力測定、語想起、歩行テスト、体組成測定、など）、脳トレ・筋トレのミニゲーム、健康講話に加えて、住民のくらしの中の元気の種＝げんき種についてインタビューを行い、参加した住民の皆さんの生き生きとした生活を教えてくださいました。旭川医科大学地域包括ケア論のホームページには活動の様子が紹介されています。ぜひご覧ください。

4. これからも住み慣れた土地で暮らし続けるために

いつまでも住み慣れた土地で暮らし続けるためには、自分自身の健康を維持するとともに、他者と交流し、生き生きと活動することが必要です。顔の見える関係、つながりをつくることこそが地域包括ケアシステムのポイントであると考えています。それぞれのお住まいの地域でいろいろな活動に参加し、元気に暮らし続けましょう！

<講義風景>



「個人情報保護制度の基本～民間事業者から町内会まで～」

2024年6月29日（土）13：30～15：30

旭川市立大学 准教授 村尾 太久

今回のオープンカレッジでは「個人情報保護制度の基本」というテーマでお話しする機会をいただきました。このテーマを選択するにあたっては、私が旭川市の情報公開・個人情報保護委員会の委員として、一昨年度から旭川市の個人情報保護法施行条例案の検討に携わってきた経験や、公立大学法人の一員として、2021年改正個人情報保護法（以下、「個情法」）に合わせた個人情報保護事務の枠組みを整える役割を担ってきた経験から、関連法令や関連ガイドライン等の内容を読み解くことにやや苦勞したという経緯がありましたので、ここからお話ししました。

個情法は、現在も再度の改正に向けて議論がなされており、関連ガイドラインに至っては、年に数回の内容改訂が繰り返されています。それらを具に追って理解することは、実務家であっても労力を要しますので、今回はまずもって、その根本となる OECD8 原則から法の趣旨を説明しました。次に、保護制度の仕組み自体は個情法に示される通りですが、条文の構成がやや掴みづらいところですので、制度設計、取得、利用、管理、第三者提供、本人対応の6つの場面を区分して、取扱事業者の一人称視点から、具体的な取扱行為を交えて、取得からの流れを説明しました。説明の中で強調した1つ目は、保護の対象となる「個人情報」と「個人データ」の区別です。民間事業者の場合は、「個人データ」についての制約が中心ですが、どこまでが「個人情報」でどこからが「個人データ」に該当するのかを理解することが大切です。また併せて、「要配慮個人情報」「個人関連情報」についても定義区分を明示しました。2つ目は、利用目的の通知、公表又は明示についてです。第三者提供とも関連しますが、取得前の制度設計段階で、取扱方針と合わせてしっかりと利用用途を洗い出し、利用目的として定めておくことが必要で、また利用にあたっては目的外利用とならないように注意する、という点を強調しました。3つ目は、第三者提供です。本人同意をとるという原則の下、委託に該当する場合の監督義務や提供記録の作成の事務処理の仕方について、具体例をもとに説明しました。4つ目は、安全管理措置のうちの人的措置と技術的措置についてです。コミュニティの大小を問わず、管理措置についての十分な理解が責任者にしかないという傾向がありますので、定例の説明会を開くなどして、取扱者全員に注意事項を周知しておく必要性などを示しました。また、最近はデータファイルでの提出や個人データのクラウド管理などを導入しているところも増えてきていますので、その場合の注意事項なども説明しました。

講義後の質疑では、町内会レベルで個人情報保護を徹底することには、事務手続の煩雑さ

や、本人同意を得ることの困難さなどから、実態にそぐわない制約であり、町内会の維持が困難になっているとの質問・感想も受けました。できる限り必要なことに限定して、TO DO リストを提示する趣旨でしたが、やはり個人情報保護指針や利用目的等の雛形だけでなく、取得時・第三者提供時・開示請求時の書式などの雛形を各町内会に提供したり、また、各町内会の実情に応じた制度設計のあり方についての相談に応じるといった、細やかなサポートの必要性を感じたところです。最後に、今回の講義を通じ、率直で闊達な議論の場を提供して下さった事務局並びに市民の皆様に、お礼申し上げます。

<講義風景>



「旭川に必要な誰もが楽しい運動理論『コーディネーション理論』を体験しよう
～スポーツ手遊び&スポーツスタッキング編～」

2024年7月5日（金）14：00～16：00

旭川市立大学短期大学部 准教授 赤堀 達也

オープンカレッジの講師をお引き受けした当初は「誰もが楽しい運動理論『コーディネーション理論』を体験しよう～スポーツ手遊び&スポーツスタッキング編～」というタイトルでした。しかし旭川の子どもの体力は、全国最低水準である北海道の中でも低い現状であること。北海道は全国最低水準の短命ながら旭川はそれよりも更に短命であるにもかかわらず、介護期間は全国平均よりも長いという信じがたい健康格差が生じていることを伝える必要があると思い、演題の頭に「旭川に必要な」という文言を急遽追加させていただきました。

関東圏から北海道旭川に来て6年が経ちましたが、これまで「あれ？」と思うことが数多くありました。「郷に入っては郷に従え」という諺もあることから、「そのような文化だ」と言い聞かせながら過ごしていました。しかし娘を身ごもり、生まれ、成長していく中で、関東圏よりも空気がいいはずの北海道旭川で娘が喘息に罹患した状況になり、「地域に研究を還元していくべき大学教員なのに看過してきた罰が当たった」のだと娘に申し訳なく思いました。それ以降、百寿大学・高大連携講座では一層力を入れて取り組んでおりますが、今回このようなオープンカレッジという貴重な場所でも声をあげる機会をいただけたことに感謝申し上げます。

介護期間を改善するために、スポーツ手遊び・スポーツスタッキングを提案させていただき、体験していただきました。受講者の方々は皆、楽しんで体験していただき、重ねて感謝申し上げます。これらのものは、体力テストが市内最低水準の学校のバスケットボールチームのパフォーマンスを向上させたい一心から指導理論・方法を変え、県大会優勝したことがもとになっています。バスケットボール指導はより高年齢に進みましたが、研究は脱力がテーマのため、より力の弱い低年齢に進み、幅広い年代を網羅することになり、地域の全ての方々に還元することができる研究となりました。そのため地域スポーツというだけでなく、三世代スポーツでもあります。旭川健康格差は子どもの時期から高齢者の時期までに渡る構造的に見直すべきものである可能性が高いです。そのため、旭川市・森山病院・ヴォレアス北海道・札幌の企業リージョナルマーケティングなどと、私の赤堀ゼミが産官学連携で開催するイベント「けんスポ！」で、地域に普及させるべく取り組んでいます。是非そちらもご参加いただけたら幸いです。

また北海道教育大学旭川校女子バスケットボール部でもヘッドコーチとして更に研究を

進めながら、中学校の運動部活動の地域移行が円滑に進むように旭川市と連携しています。こちらも応援していただけたら幸いです。

この度は精力的にご参加いただきありがとうございます。ご清聴いただきありがとうございました。

<講義風景>



「医師で開拓者の“関寛齋”の足跡をとおして、近現代の北海道を考える」

2024年7月13日（土）13：30～15：30

旭川市立大学 名誉教授 竹中 英泰

1. 医師としての関寛齋

①佐倉順天堂で蘭医学を学び、銚子の開業時に1年間長崎の医学伝習所でポンペに学ぶ。
②幕末期の医師、とくに西洋医学から得る医師倫理に共鳴する。「医師は自らの天職をよく承知していなければならぬ。ひとたびこの職務を選んだ以上、もはや医師は自分自身のもではなく、病める人のものである。もしそれを好まぬなら、他の職業を選ぶがよい」というポンペの言葉は、今日伝習所を引き継いだ長崎大学医学部の壁面に刻まれている。
③戊辰戦争時の軍陣病院頭取として陣頭指揮をとり、新政府から高い評価を得る。
④養父から引き継ぐ儒教や西洋医学由来の倫理感から、宮仕えを忌避し徳島で町医者続ける。
⑤4男又一の札幌農学校入学を機に北海道開拓を発心（72歳）、日本の国力増進を念頭に「私から公への奉仕」に舵を切る。残りの生涯を北海道最後の原野ともいえる陸別開拓に専心するというのである。

2. 「北海道開拓の諸相」の視点からみる関寛齋の陸別開拓

1) 士族による開拓は、戊辰戦争敗者藩や廃藩置県後に窮する諸藩などが切羽詰まって開拓地貸下げを申請し原野開拓へ入ったことをさす。①仙台藩亘理家の伊達邦成と家臣らは有珠地方の開拓へ、②同岩出山家の伊達邦直は家臣らと当別へ、③同白石家の片倉邦憲と家臣らは幌別郡へ、④徳島藩の稲田邦植と家臣らは静内へ、そして⑤尾張徳川慶勝は新政府への恭順の一環で八雲に農場を拓いた。

2) 屯田兵による開拓は、明治8年琴似屯田を筆頭に明治23年改革を経て37兵村、7,337戸、39,911人に上る。家族持ちを条件に3年間の食扶持保証のもと全国から招募した。明治23年改革を機に平民屯田に変わる。明治24年から始まる永山屯田、旭川屯田、当麻屯田それぞれ400戸入植は、鉄道開通や第7師団移転とも重なって旭川圏域の人口急増をもたらした。

3) 会社組織や結社を組んだ開拓も奨励された。①鈴木清らが設立した赤心社は明治13年に浦河へ、②依田勉三らが明治15年に設立した晩成社は、翌年から十勝へ、③関矢孫左衛門らが明治21年に設立した北越殖民社は、江別へ、④二宮尊親らが明治30年に設立した興復社は、豊頃へ、⑤坂本直寛らが明治31年に設立した北光社は北見に入植した。

4) 明治30年国有未開地処分法を契機に大地積の開拓が企図され、大方は失敗と改編を経て大農場経営を進めた。①蜂須賀侯爵らによる華族組合雨竜農場は改編を経て開拓を引き継ぎ、②旧松江藩主松平直亮により設立された松平農場（明治28年）は、改編と小作解

放をへて鷹栖開拓を引き継ぎ、③武市安哉らが設立した聖園農場（浦臼）は、武市急死後は坂本直寛らが経営を引き継ぎ、④有島農場（明治31年）は、武郎に名義変更後大正11年の小作解放をへてニセコ開拓を引き継いだ。

「北海道開拓の諸相」について、このようにまとめてみると、本報告の主人公、**関寛齋**・又一親子による陸別開拓（明治35年）は、原野を拓く北海道開拓の最後をなす。明治43年の鉄道開通と、寛齋没後経営を引き継いだ又一の離農（大正末期）を機に、関農場の解放は多くの自作農を生み、陸別開拓は新たな次元へ引き継がれた。

3. 関寛齋と徳富蘆花の交遊

冬場に次男の住む東京滞在時に、「順礼紀行」を刊行した徳富蘆花との交遊が始まった。敬愛するトルストイを蘆花が訪ねたように、寛齋はトルストイをより深く知りたくて蘆花を訪ねたわけである。上京時の蘆花宅訪問から始まって、陸別の鉄道開通直後には蘆花家族が陸別を訪問した。5泊6日の陸別滞在は、蘆花「みみずのたはごと」に詳述される。寛齋宅を拠点に、森林調査隊の拠点とするキャンプ現場への訪問記は、道中の自然描写はもちろん現場に働く20人余（アイヌを含む）の様子も含め圧巻の筆運びを楽しめる。帰途に垣間見るアイヌについて描写をかりて結びとしよう。

「彼らアイヌは亡びゆく種族と看做されている。然し此の森林に於いて、彼らは正に主である。眼鏡やリボンの我らは畢竟新参の侵入者に過ぎぬ。余は殊に彼ヤイコクが5束もある髭髯蓬々（しゅぜんぼうぼう）として胸に垂れ、素戔鳴尊を見るような六尺ゆたかな堂々雄偉の骨格と悲壮沈鬱な其の眼光を熟視した時、優勝者と名のある掠奪者が大なる敗者に対して感ずる一種の恐怖を感じざるを得なかった。」

<講義風景>



「楽しい哲学—哲学の特技＝常識を疑おう！—」

2024年8月23日（金）14：00～16：00

旭川工業高等専門学校 名誉教授 白井 暢明

（旭川ウェルビーイング・コンソーシアム教育コーディネーター）

哲学的思考とはまず、常識を疑うところから始まる。

おかしな常識その① 「速い（早い）ことは良いことだ」

速（早）さそれ自体に価値はない。節約された時間をどう使うかが問題である。

おかしな常識その② 「大きいことは良いことだ」

大小自体に価値はない。この世界に存在するものすべては「適度の大きさ」で成り立っている。

おかしな常識その③ 「進歩とは良いことだ」

「進歩」には限界がある。「進歩」ではなく「循環」が宇宙の原理である。

おかしな常識その④ 「経済成長は良いことだ」

経済成長は「人間の限りない欲望」の上に成り立つ一種の神話（無限の経済成長は原理的に不可能）になっているが、地球の環境破壊の最大の原因になっている。

おかしな常識その⑤ 「効率がいいのは良いことだ」

効率とは、「目的に一直線に向かっており、ムダがない」ことを意味するが、問題は、その目的それ自体が意味のある、有意義なものかどうか、である（核兵器は人を殺す最も効率の良い武器である）。

おかしな常識その⑥ 「安いことは良いことだ」

商品が安いことはその生産者の利益が少なくなることを意味する。特にその生産者が発展途上国の貧しい人々である場合、彼らはさらに貧しくなることを意味する⇒フェア・トレード（公正貿易）

おかしな常識その⑦ 「カネは人を幸せにする」

カネは本来、モノやサービスを交換するための手段にすぎない。しかし、いつの間にかこの手段が目的になってしまった（目的と手段の倒錯：カネ儲けのための土地の売買がその例）

おかしな常識その⑧ 「軍備で国民の安全が守られる」

軍備を持つ理由は「軍備を持つ外国の攻撃から自国民を守るため」とされている。ということは外国が軍備をたなければ、自国も軍備を持つ必要はない。しかし、互いに軍備を捨てずに拡張ようとしている理由は、自国の軍需産業を守るためである。

おかしな常識その⑨ 「いいかげんは良くない」

「いいかげん」とは文字通り「良い加減」のことで、人間の高度な調整能力のことである。これがいつのまにか悪い意味に使われるようになった。「柔軟性」や「ゆらぎ」こそ大切で

ある

おかしな常識その⑩ 「人間は特別な存在である」

キリスト教やフランス啓蒙思想（F.ベーコンなど）の影響で、「人間は神に似た特別な存在である」という見方が広まったが、本来、人間は他の生物と同じく、生態系の中の一員にすぎない。いまや人間は、このことを再確認して、エコロジカルな生き方を取り戻さなければならない。

<講義風景>



「ユネスコ創造都市ネットワーク～デザイン都市旭川とは？～」

2024年9月21日(土) 13:30～15:30

旭川工業高等専門学校 教授 浜田良樹

この講座は、本年10月21日から25日まで、旭川市がホストとなって開催された「ユネスコ創造都市ネットワーク」デザイン分野サブネットワーク会議の予告・解説を兼ねている。ユネスコ(国連教育科学文化機関)は国際連合が発足して最初に結成された下部組織であり(1946年)、パリに本拠を置く。日本は1951年に加盟し、「ユネスコ活動に関する法律」に基づいて文部科学省が所管する「国内委員会」を設置、地域ごとにユネスコ協会がある。

ユネスコの事業は世界遺産など幅広いが、そのひとつとして「創造都市ネットワーク」という枠組みがある(2004年)。これは文化の力を用いて創造的で持続可能な都市づくりを進め、その経験をベスト・プラクティスとして共有することを目的とした都市の緩やかな結合である。具体的には文学、音楽、映画、クラフト&フォークアート、メディアアート、デザイン、食文化の7分野が定義されている。2024年9月の段階で300ほどの都市が登録されている。年に一度全体総会を開催し、実務は各分野で互選したコーディネータが取り仕切る。

さて、旭川においては、家具デザインの分野において長い年月にわたって卓越した産業の集積があり、IFDAなど高い評価を受けるコンテストを主催するなどしていた。ここから創造都市ネットワークに加盟しようという気運が高まり、2019年にあさひかわ創造都市推進協議会が発足した。同協議会の支援により旭川市名義の提案書をつくり、文部科学省の了承を得て正式に立候補し、同年10月30日にユネスコのホームページに掲載された。

ここで、改めてデザインによるまちづくりとはいかなるものかを考えてみる必要がある。2018年、経済産業省と特許庁がデザイン経営という言葉を提唱し、爾来、デザインと冠するものが流行するようになった。旭川等を加えて39都市になったデザイン分野の中では、デザインは一義にはまちづくりデザインだが、コンテンツとしてカーボンニュートラル、DX、ジェンダーなど実に多様であり、何に重点を置くかは各都市が決めている。旭川はたくさん選択肢の中から初手を決める必要があった。それは大きな予算を使わず、既存の政策と矛盾せず、かつ新たな海外の同僚都市に対し誇りを持ってアピールできる「あさひかわの道」である。これを模索していた時期は、コロナ禍と一致する。そして、筆者が発案・提唱し、多くの賛同者の力を得て、21年9月に学び合いのイベント「まちなかキャンパス」が生まれた。サブネットワークにおいては、街ぐるみの学び合いの機会をデザインしたと表現した。32万人の都市で6万人以上というのは特大であり、類似のイベントがないため、内外で大きな注目を浴びた。時を同じくして、旭川市はデザイン分野の年次大会を誘致することとし、市長がビデオスピーチで決意表明し、加盟都市による投票で選ばれた。その後まさに産学官金の総力を挙げて実現したのが冒頭で示した10月の国際会議である。

これはゴールではなく、第2ステージの始まりである。デザイン都市が市民に浸透し、真に誇りに思えるようになる日まで、私たちの旅は続く。

<講義風景>



「北国の住まい～旭川と北欧～」

2024年9月28日（土）13：30～15：30

建築家／東海大学 名誉教授 大矢 二郎

「住まい」と「ライフスタイル」には強い関連があります。例えば、どの国の・どの地域の・どのマチに住むのかといったことから、都心に住むのか・郊外に住むのか、共同住宅（賃貸アパート、マンションなど）に住むのか・庭付き一戸建て住宅に住むのか、あるいは各種施設（寮、寄宿舎、高齢者・障害者福祉施設など）に住むのかといった違いにより暮らしの様相が大きく変わってきます。

ここではいくつかの事例を紹介しながら、住まいや暮らし方の多様性を考えることにしました。

初めに北欧・デンマークの首都コペンハーゲンの都心で地区150年を超える木造5階建て共同住宅に住む知人宅の例。きめ細かい修復工事を施しながら、簡素で美しい暮らしが営まれています。そこには、我が国の大都市にありがちな安易な再開発をせずに、適度な密度を維持しつつ豊かな都会の暮らしを楽しむデンマークの人々の心意気が窺えます。

次に紹介したのはコペンハーゲン北部の町の閑静な住宅地に建つ木造2階建て戸建て住宅。現在は東海大学ヨーロッパ学術センターとして使われていますが、余裕のある敷地規模や建物内部の様子からゆとりのある質の高いデザインを志向する住み手の住居観が伝わってきます。周辺の住宅地に見られる緑豊かな景観は風土が似ている北国・旭川に暮らす私たちにも大いに参考となります。

旭川の住まいの事例としては筆者が26年間そこで暮らしている住宅を紹介しました。敷地は旭川に現在20カ所ある「地区計画」制度（都市計画の大枠の中で各地域の特性に応じた細かなルールとして建築物の用途や位置、高さの制限などを定めるもの）による指定区域のうち最初に認定された地区にあり、凶らずもその制度の可能性と限界を語ることにもなりました。

当該住宅の敷地は「地区計画」の中で「便利施設A地区」に指定されていて、当初は専用住宅が建てられない土地でした。いずれ建築設計事務所の開設を考えていた私はそこに住宅を建てることにして自ら設計したのですが、プラン（平面計画）の特徴は「アトリエ型住居<2公室型住宅>」といい、住居のパブリックスペースを、オフィシャルな「ハレ」の場としての<公室1>と、カジュアルな「ケ」の場としての<公室2>に分けた所です（これは地区計画の制約上の必然でもありました）。

構造上の特徴は、1階を補強コンクリートブロック外断熱工法で、2階を在来木造工法で建てた点にあります。コンクリートブロックは熱容量（質量×比熱）が大きく一度温めると

冷め難い性質を持つ素材なので、これで壁を造ると厳寒期でもマイルドな室内環境が得られます。実はこの工法は夏季の室内環境を快適にする効果もあります。旭川は内陸にあるので、夏季の昼と夜の温度差が大きく、夜間の冷気を室内に導いてブロックの壁体を冷やしておく、日中、外気が上昇しても室内はそれほど暑いと感じません。つまりこの建て方は北海道の中でも特に旭川のような地域に適した工法と言え、私は「旭川型住宅」と称してもいいと思っています。

北海道の住まいを考える際、一括りに「寒地住宅」と纏めてしまわずに、せめて道北、道央、道東、道南の地域毎に、その独自の気候、風土、歴史を踏まえた上で、各々に相応しいカタチを探ることが大切だと常々思っています。

<講義風景>



「幼児は“できること”を通して何が“できる”ようになっているのか？

－ 運動能力の向上に伴う自我の発達 －」

2024年10月19日（土）13：30～15：30

北海道教育大学旭川校 准教授 小谷 克彦

幼児の運動能力の発達は、単に“できないことができる”ようになるだけではない。“できるようになる”過程では実に様々な体験をしており、特に、できないことが多い幼児は、現実世界でできない代わりに非現実的な世界で様々な体験をしている。その非現実的な世界での体験が幼児の“こころの発達（自我）”に繋がっている。そして、その非現実的な世界での取り組みは、“身体”での表現によって現実的な世界に現れている。そこで本講義では、運動能力の発達に伴って幼児が経験している体験を明らかにする試みを紹介した。

幼児の運動能力の向上を試みる際に、どうしても“できないこと”はいわゆる良くないことであり、直ちに“できるようになること”をまず考えてしまう。しかしながら、“できないこと”は悪いことではない。むしろ、“できない体験”を疎かにすることが危険である。幼児のみならず、我々は“できない体験”から様々なことを学んでおり、そこでの取り組みは“こころの発達”にも寄与している。つまり、直ちに“できる”ようにしてしまうと、幼児の“こころの発達”を疎かにしてしまうことになる。これが、幼児の運動能力の発達を考える際に“こころの発達”も理解する意義である。

本講義では、幼児の“こころの発達”を捉える観点として“自我”に着目した。自我とは学術領域によって捉え方が異なるが、オーストリアの心理学者であるフロイトは、こころの構造を自我・イド・超自我という3つの視点から捉えている。“イド”とは無意識の領域のものであり、我々の根源的な様々な欲求のことである。“自我”とは意識の領域のものであり、我々が日々自覚している＜私＞である。そして、“超自我”はイドや自我の見張り役であり、「～してはいけない」といった道徳的な善悪の判断や「～すべきである」という理想的な自分を形作る役割をもったものである。例えば、授業で「眠たい」というイド（欲求・衝動）に対して「授業で寝てはいけない」という超自我が働き、そしてイドと超自我がせめぎ合い、その結果、「寝ないで頑張ろう」という自我（＜私＞）が形成される。ここで少し話がそれるが、本講義で着目している運動能力、すなわち身体は意識の領域のものか、それとも無意識の領域のものなのかと考えると、我々の身体は、意識領域のもの（例：意図通りに身体を動かせる）でもあり、無意識領域のもの（例：心臓を止めることはできない）でもある。そのように考えると、身体表現（運動能力）は、イドと超自我のせめぎ合いの結果であり、自我そのものであるとも考えることができる。本講義は、このような観点にたって、運動能力（身体表現）の様相から“こころの発達”の様相をも捉えることができると考えたものである。

さて、幼児の運動能力の発達は、当然年齢に応じて右肩上がりに発達していく。しかし、各年代で発達しやすい能力で検討した所、以下のような傾向が認められた。4歳前半では「両足連続跳び越し」が他の運動能力に比べ発達しにくく、4歳後半になって「両足連続跳び越し」と「立ち幅跳び」が発達する。その後、「立ち幅跳び」はしばらく停滞するが、5歳後半になって再び向上する。5歳前半では「捕球」が高まり、5歳後半になると「ボール投げ」が発達する。このような運動能力の発達の背景において、特に幼児が非現実的な世界でどのような体験をし、運動能力の発達という現実的な世界へどのように繋げているのか？それぞれの運動の構造を考えてみると、「両足連続跳び」は2つの動作を繋げる動作であり、「立ち幅跳び」は力を貯めて伝える動作、「捕球」は外的なものとのタイミングを合わせる動作、そして「ボール投げ」はより遠くへ意思を発信する動作である。4歳児は、目的やビジョンをもって外界とのつながりに試行錯誤している段階であり、その取り組みの成果が「両足連続跳び」の発達という形で現れていると考えられる。そして、5歳になると、色々と繋がることで“活発さ”が増すが、その一方で、外界へより伝えるために“貯める”・“待つ”ことが求められる。それが「立ち幅跳び」や「捕球」の発達に繋がっている。そして5歳児後半からは、自分の意思をより遠くへ発信することを通して、自身の世界を上げようとしている。

以上のように、幼児の運動能力の発達傾向をその外的な姿だけでなくその背景にある内的な体験（非現実的な世界での体験）にも目を向けると、ただ単に“できる”ようになっただけではないことがわかる。どうしても現実的な世界での“できる”を促し、無力感をできるだけ抱かせないように試みてしまうが、“できない”間に幼児がどのような体験をしているかが重要であり、その体験で得ている主体感を尊重することが大切である。幼児は、主体感を現実的な世界で得ることは難しい。我々大人は、幼児が主体感を獲得しようと苦闘している体験に寄り添うことが大切である。

<講義風景>



「あさひかわオープンカレッジ」アンケート実施結果

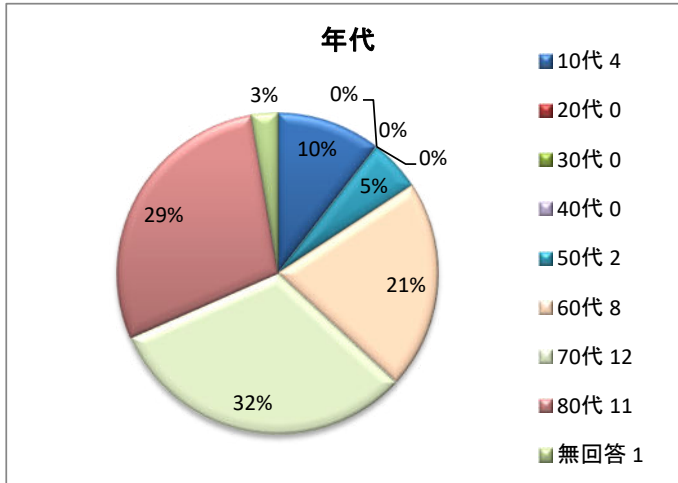
旭川ウェルビーイング・コンソーシアム「あさひかわオープンカレッジ [前期]」

①「地域包括ケアシステムと旭川医科大学看護学科『地域包括ケア論』の活動～住み慣れた土地で暮らし続けるために～」

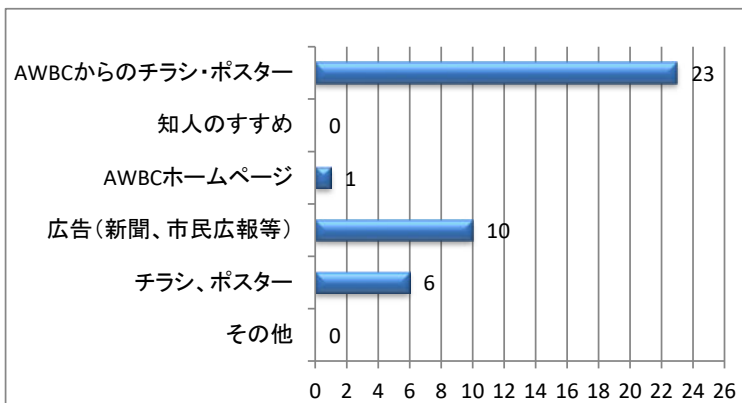
(06/07 (金) 14:00～15:45開催) アンケート結果

受講生 42名 回答者 38名
 回答率 90%

問1. あなたのことを教えてください。



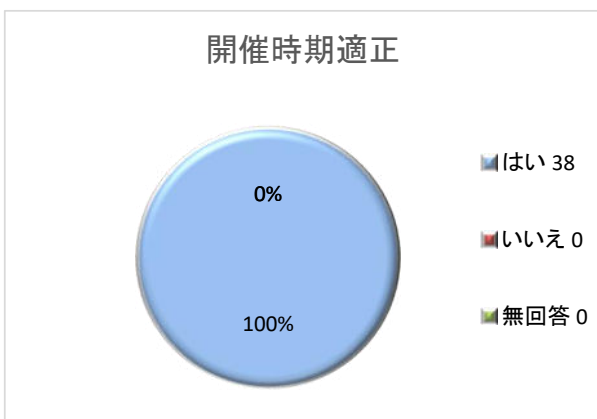
問2. 本講座の開催はどのようにして知りましたか。(複数回答可)



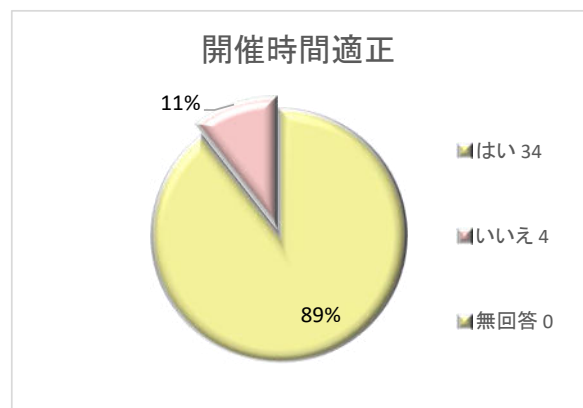
【備考】

- あさひばし
- 学校(高校)チラシ
- あかり

問3. 開催時期は適切ですか。



問4. 開催時間は適切ですか。



○10頃 ○13時頃 ○15時頃

問5. 今後希望する講座のテーマをお書きください。

- 官民一体となった来旭者の増と方策について
- わかりやすく楽しく政治の話を知りたい(歴史を含めて、今と、どうつながってきているのか、政治に無関心な日本人でいいのか等…)
- 少子高齢化をストップさせる取り組みなど
- 介護と医療の連携のあり方を具体的な事例を基に内容の検討をして、今後の参考としたい(成功例と失敗例など)
- 高齢者の食事の栄養管理について(年代別に)
- あまりよく分かっておりませんので、開催して下さる講座なら、何でも受講させていただきたいと思っております
- 血液のはなし
- 音楽系(歴史とか…)
- 地域住民との助け合い交流についての手段
- 遠慮のない助け合いとは何か、どのようにつながっていくかを勉強したい(社協からの依頼で動いたりしますが、軽い手伝いなどetcですよ)
- 認知症の家族と暮らすには、公的サポートが受けられるのか
- 「元気な老人」は毎日を何とか人のために動いてみたいが、最後まで(亡くなるまで)自宅に留まる具体的な方法を知りたい
- 高齢者向けの健康増進など
- 健康に暮らせるための方法(高齢者の全般的な方策)
- 終活について(現状(現実)と未来~希望)
- 老齡者、殊に独居生活者向けの入居施設について(個別具体的に教授される機会を所望します)
- 前期最後の講座「医師、開拓者である関寛斎の足跡」に大いに興味があります。北海道の開拓、発展等に尽くした人は、まだまだいると思いますので、是非、その方々の足跡、功績等をテーマにしてほしい
- 家族のケアについて
- 自助・共助・互助・公助学習の研修
- 少子高齢化における地域産業のあり方

問6. その他ご感想、ご意見、ご要望があればお書き下さい。

- 大変良かったです。ありがとうございます
- 少子化・高齢化を問題とするのは、話の組み立て上わからないわけではないが、それは、変えられない。又は進むのはしかたない。止められないところからの、社会、地域、日本作りを楽しく考えたいですね
- 看護学科の「包括ケア論」の内容(概要)は理解できました。「げんき種」については、高齢者看護の先生方から聞いておりました。私の住んでいる東光にも、もう一つのチームを増やしてもらえると(他力本願ですが)いいナー…。今後は地域での看護師さんの活躍が本当に重要……。核になるかもしれないと、以前から思っています。『看護職』増えるといいナア、「町の健康相談室」など
- 今回の講義内容は素晴らしかったと思います。地域でも活用したいと考えています
- 本日の講座は、今まで旭川医大の学生さん方の活動は、あまり理解しておりませんでしたので、とても勉強になりました
- 医大生の具体的な取り組みが良かった。健康セミナー「元気種」実施計画書も良かった。他でも使える。「人と人とのつながりが、セーフティネット」いい関係を世代間でつ作りたいものです
- いろいろな話、勉強になりました。わかりやすい話でした。息子は看護職ですが、聞いてあげられなかったと思いました。息子を今、尊敬しています
- 「地域包括ケア論」学問的に樹立されて、大学教育で履修するものなのか、医科大学の教養課程か、専修課程なのか、文系大学リベラルアーツの「社会調査法」などのフィールドワークのカテゴリーのようにも思いました
- 健康セミナー「元気種」に一度申し込みたいと思います
- 日本では、高齢者の区分を強く出していますが、他国ではどうなのでしょう
- 本日は、ありがとうございます。この資料作成にも大変なお時間を要されたと思います。感謝申し上げます。若い学生が参加されたことは嬉しいです
- 楽しい講座でした。病院でモルモットをしていましたよ。若い人はすばらしいですね!
- 話しが快活でわかりやすく、とても良かった。言葉がはっきりしていて聞きやすかった

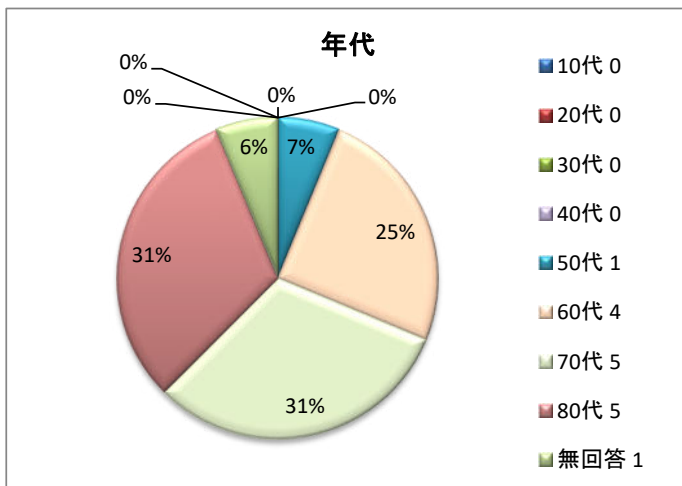
旭川ウェルビーイング・コンソーシアム「あさひかわオープンカレッジ [前期]」

②「個人情報保護制度の基本～民間事業者から町内会まで～」

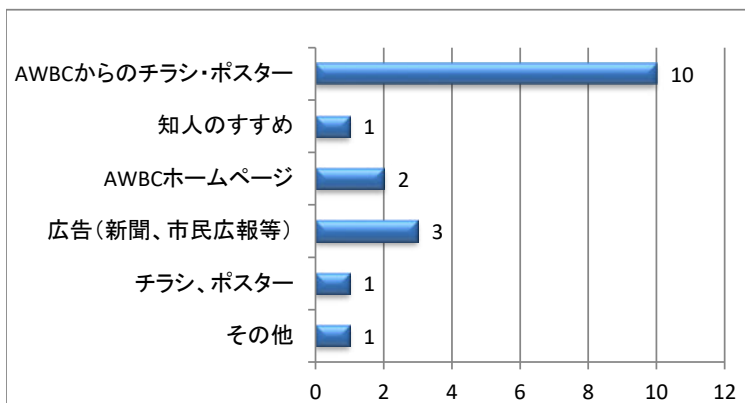
(06/29 (土) 13:30～15:30開催) アンケート結果

受講生 17名 回答者 16名
 回答率 94%

問1. あなたのことを教えてください。



問2. 本講座の開催はどのようにして知りましたか。(複数回答可)

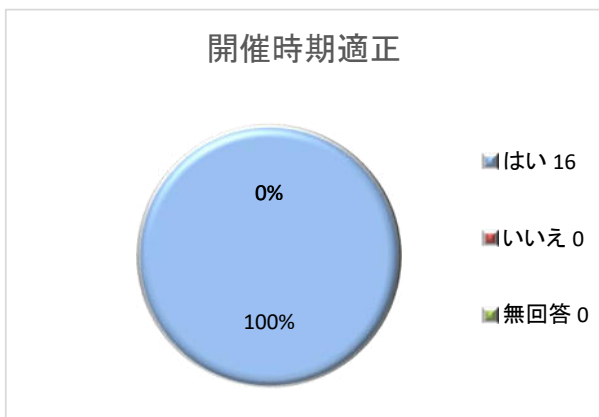


【備考】

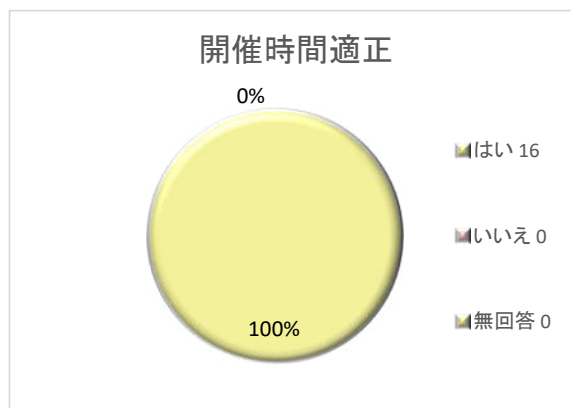
あさひばし

道民カレッジHP

問3. 開催時期は適切ですか。



問4. 開催時間は適切ですか。



/
 ・土曜日だと参加しやすい

問5. 今後希望する講座のテーマをお書きください。

- AI等情報化が進む社会における高齢者について
(AI等情報化が進む社会の中で、それが苦手な高齢者はどう対処するか。
また、社会はどう対応すべきか。今はまだ会社も電話で対応してくれるが、
それがなくなると、とても困る)
- 後見人制度・相続登記
- マイクロプラスチックの害拡大と各自がささやかでも出来る事について
- マイナンバーについての講座
- 来旭者の増を図るための方策は？

問6. その他ご感想、ご意見、ご要望があればお書き下さい。

- あまり知らない情報を教えていただき、とても参考になりました。わかりやすい説明でとても良かったです
- 本日はありがとうございました。感謝申し上げます
- ちょっと難しかった。こちらが個人情報の法律の知識が浅かったと感じました
- 難しいですね
- 毎回楽しく聞かせていただいています
- 資料の活字が小さくて判読しにくいです

旭川ウェルビーイング・コンソーシアム「あさひかわオープンカレッジ [前期]」
 ③「旭川に必要な誰もが楽しい運動理論『コーディネーション理論』を体験しよう
 ～スポーツ手遊び&スポーツスタッキング編～」

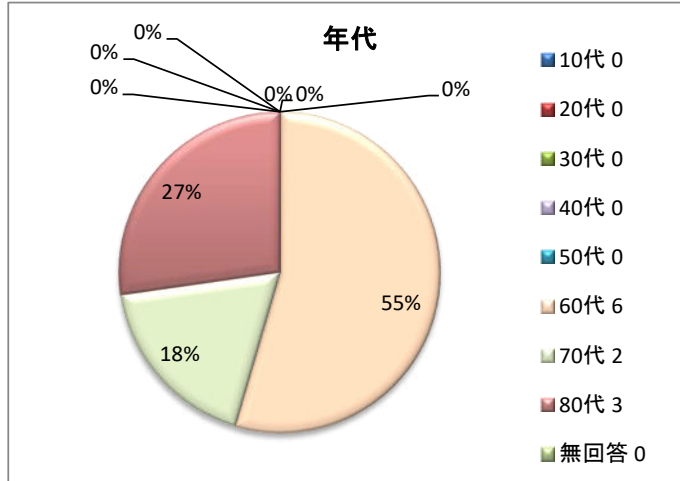
(07/05 (金) 14:00~16:00開催) アンケート結果

受講生 11名

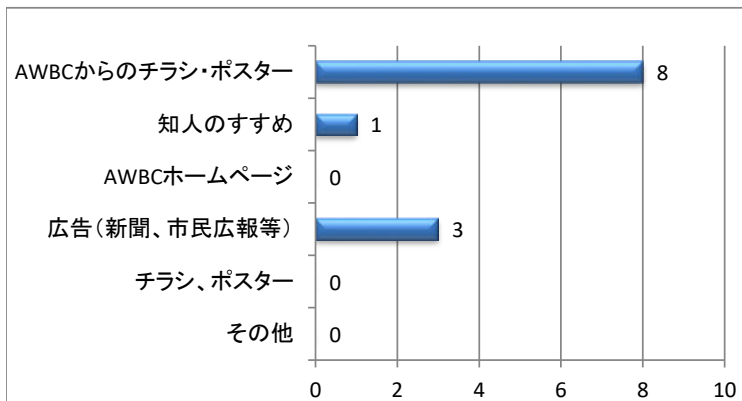
回答者 11名

回答率 100%

問1. あなたのことを教えてください。



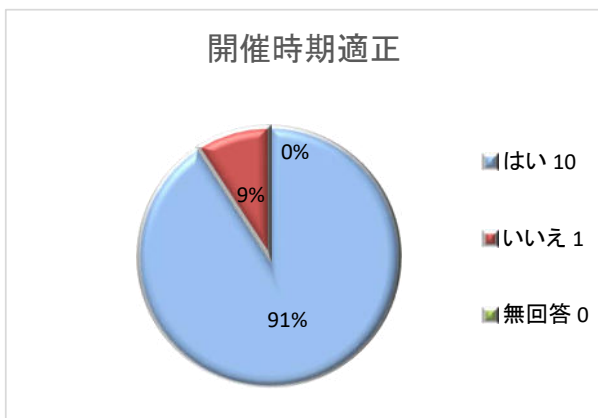
問2. 本講座の開催はどのようにして知りましたか。(複数回答可)



【備考】

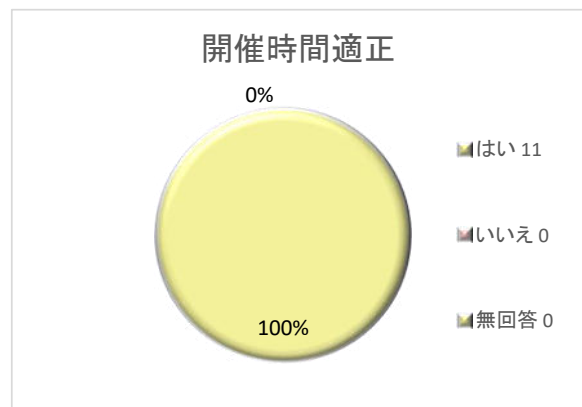
- あさひばし
- あかり

問3. 開催時期は適切ですか。



5・6月頃

問4. 開催時間は適切ですか。



問5. 今後希望する講座のテーマをお書きください。

問6. その他ご感想、ご意見、ご要望があればお書き下さい。

○すぐためになって、面白かったです

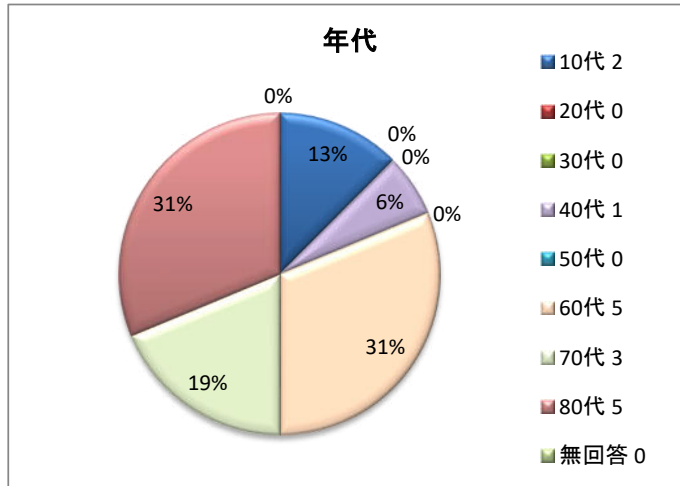
○楽しく、わかりやすく有意義な時間が送れました。今、縁している高齢者コミュニティで実践していきます

○実習もできて楽しかったです。子供たちの教育(子育て)にも関心があるので、口答えをすることと、頭を使うこととの関係など考えさせられました。赤堀先生が受動性を問題にされていることはすばらしいと思います(子どもの権利という観点からも)

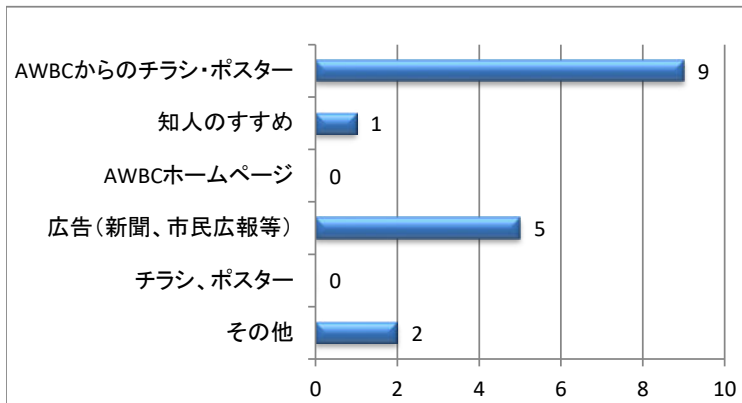
旭川ウェルビーイング・コンソーシアム「あさひかわオープンカレッジ [前期]」
 ④「医師で開拓者の『関寛斎（せきかんさい）』の足跡をとおして、近現代の北海道を考える」
 (07/13 (土) 13:30~15:30開催) アンケート結果

受講生 18名 回答者 16名
 回答率 89%

問1. あなたのことを教えてください。



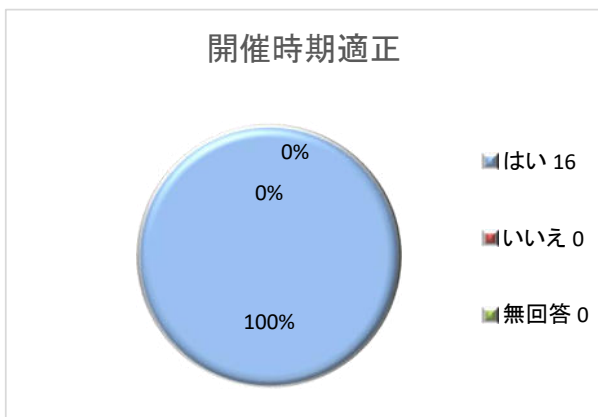
問2. 本講座の開催はどのようにして知りましたか。(複数回答可)



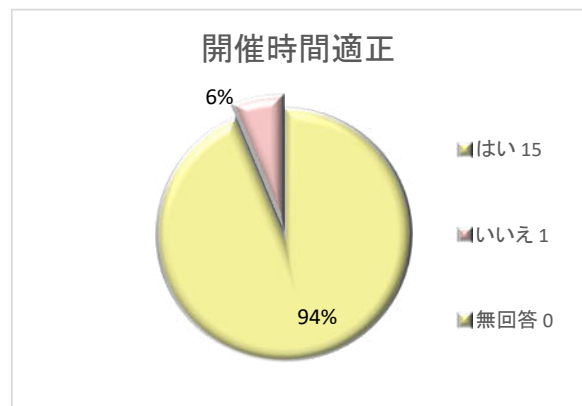
【備考】

- ・あさひばし
- ・あかり
- ・講師からの紹介

問3. 開催時期は適切ですか。



問4. 開催時間は適切ですか。



問5. 今後希望する講座のテーマをお書きください。

- 大正時代にみる文化の発展・変化
- 高度成長時代の影
- 現在の市政(旭川)から50年後の想定地方自治体の将来展望
- 三浦綾子さんの作品「泥流地帯(正・続)」に出てくる実在の人々
- 同じように北海道を開拓した人々について知りたいです。(例えば、今日のテキストの中から、赤心社・晩成社・北光社・武市安哉(聖園墓地に大きな立派なお墓があり誰だろうと思っていた)・坂本直寛)

問6. その他ご感想、ご意見、ご要望があればお書き下さい。

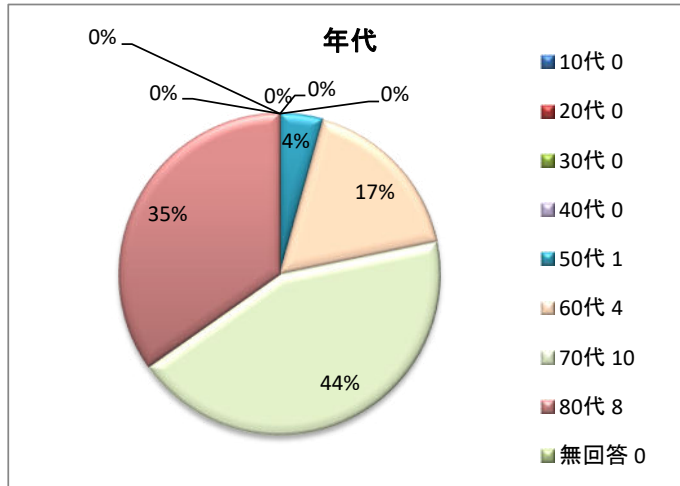
- 素晴らしい企画、今後PRしたいと思います
- 私の知りたいことは、生まれた時から北海道に住む方には、もう知っている事なんだろうな
- 関寛齋お知ったのは、高田郁さんの作品「あい永遠に在り」を読ませていただき知りました。その時から関寛齋さんには興味を持っていました。今日は大変うれしい講義でした。ありがとうございました
- 小生は医師で、以前から関寛齋に興味をもっていました。今日は、徳富蘆花との関連を聞いて興味深かったです
- 関寛齋さんという人物の生き様を知り、立派な人がいたことが、今の北海道の発展があることに感動しました
- 何時も楽しく聞かせていただいています
- 学校で習わないことだったので、面白かったです。今日初めて聞いた人物だったけど、大変な人生を送っているなと思った。私たちは屯田兵が開拓したとしか、習わないので、その辺の話が面白かった
- 初めて受講させていただきましたが、今後も機会があれば受講したいと思います。ありがとうございました
- 興味深い話が聞いてよかったです。今日初めて関寛齋の事を知ったけど、もっと知りたいと思った。とても面白かったです。歴史について知らなかったことも今回知ることができた。これからも勉強していきたいと思った

旭川ウェルビーイング・コンソーシアム「あさひかわオープンカレッジ [後期]」

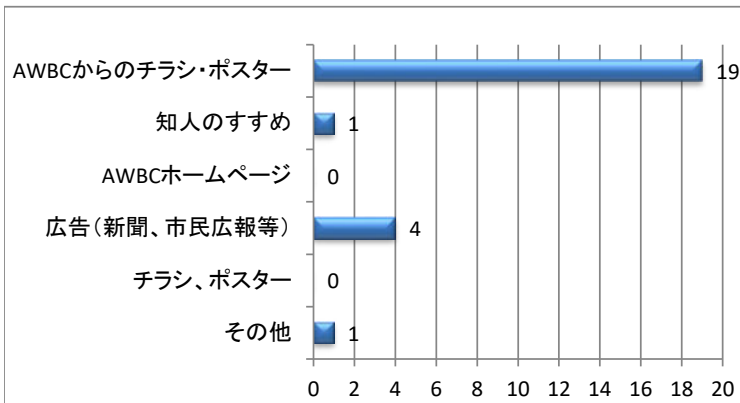
⑤「楽しい哲学—哲学の特技=常識を疑おう!—」
(08/23 (金) 14:00~16:00開催) アンケート結果

受講生 25名 回答者 23名
回答率 92%

問1. あなたのことを教えてください。



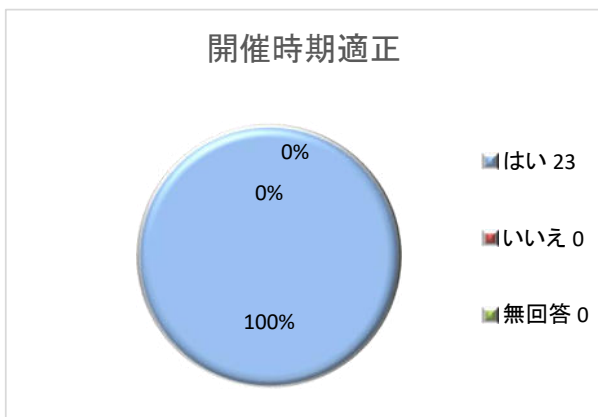
問2. 本講座の開催はどのようにして知りましたか。(複数回答可)



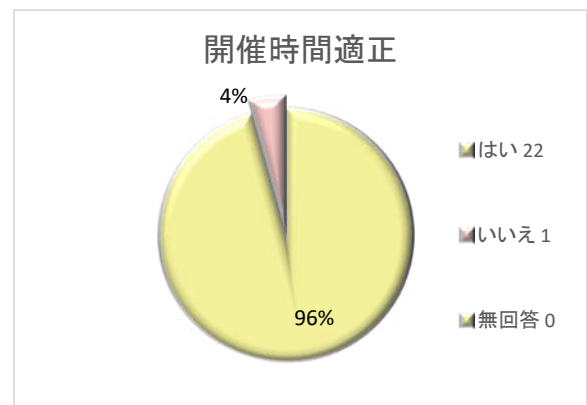
【備考】

○あさひばし
○akar i

問3. 開催時期は適切ですか。



問4. 開催時間は適切ですか。



○10時頃

問5. 今後希望する講座のテーマをお書きください。

- 日本の美術についての講座
- 医学関連
- 哲学と健康に関すること(カントの規則正しい生活が健康に良いか教えて下さい。何より健康が大切なので、行動や考え方で)
- 地球温暖化
- ゆとり教育を受けた世代のコミュニケーション力・方法
- これからの政治
- 日本の哲学者のことについて知りたい

問6. その他ご感想、ご意見、ご要望があればお書き下さい。

- とても、わかりやすかった。哲学というより、現代の困ったことが、わかりやすく説明していただいた感じです
- 哲学⇨難しいのか？⇨楽しく聞けました。倫理？、哲学？、同じ世界か？
- 今日の「楽しい哲学」の講座内容は、大変興味深く拝聴しました
- 本日はありがとうございました。日常生活にて、「良い加減」を高齢に成り実感しております
- 分かりやすく面白かった
- 私はどのような講座も勉強し、受講したいと思っておりますので、色々企画してくださいますようお願いいたします
- 「楽しい哲学」この講義で、改めて人間生活の常識について考えさせました。たのしい講義でした。
- ありがとうございました。講義を聴いて、「安物買いの銭失い」を思い浮かびましたが？

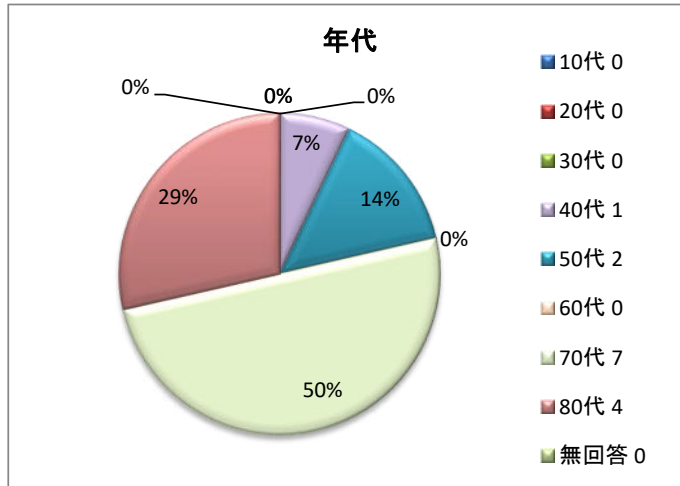
旭川ウェルビーイング・コンソーシアム「あさひかわオープンカレッジ [後期]」

⑥「ユネスコ創造都市ネットワーク～デザイン都市旭川とは?～」

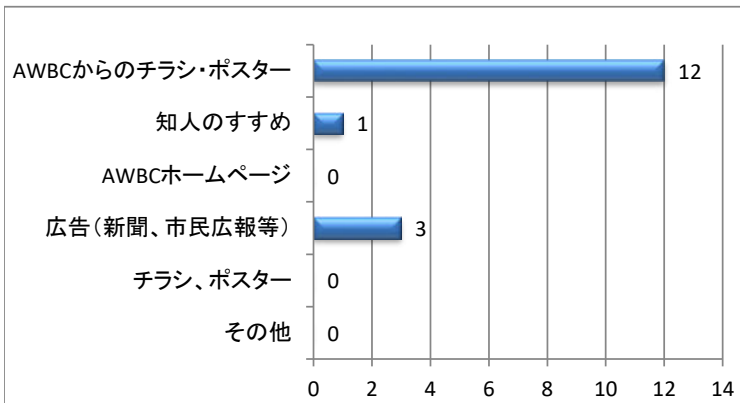
(9/21 (土) 13:30～15:30開催) アンケート結果

受講生 17名 回答者 14名
 回答率 82%

問1. あなたのことを教えてください。



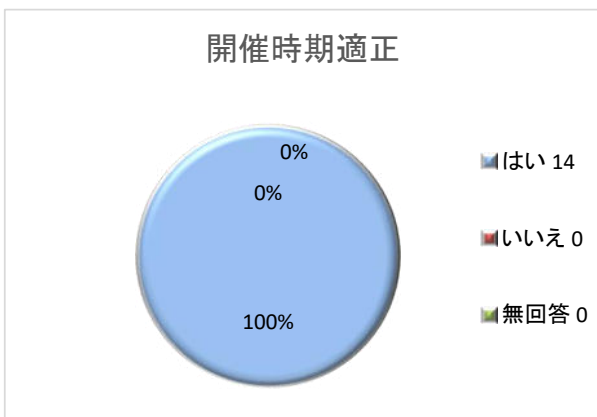
問2. 本講座の開催はどのようにして知りましたか。(複数回答可)



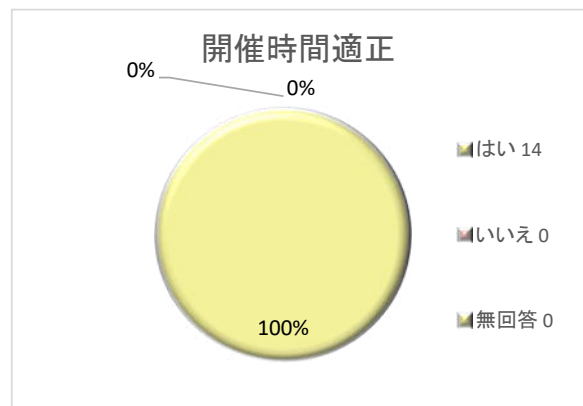
【備考】

○あさひばし

問3. 開催時期は適切ですか。



問4. 開催時間は適切ですか。



問5. 今後希望する講座のテーマをお書きください。

- デザイン関連の話
- 医療・病気について
- 北欧地域のこと
- 鉄道の歴史「あさでん」など

問6. その他ご感想、ご意見、ご要望があればお書き下さい。

- デザイン創造都市の加盟認定の経緯について、大変よく理解できました。「まちなかキャンパス」のご苦勞大変なことと存じます
- 楽しいお話しでした。旭川も捨てたものではないのですネ
- 旭川市も希望が持てた感じがした
- 全部が新しい言葉の感じがしたが、これは面白いと思いました。ユネスコに載っているのでビックリでした(旭川在住55年です)
- 面白かった
- 10月21日～10月25日の会議結果を聞く機会をいただきたいです
- 何時もたのしく聴くことができます。ありがとうございます

旭川ウェルビーイング・コンソーシアム「あさひかわオープンカレッジ [後期]」

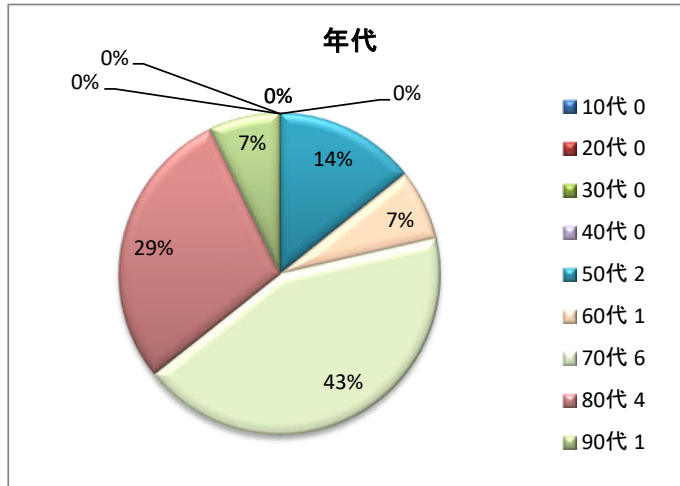
⑦「北国の住まいー旭川と北欧ー」

(9/28 (土) 13:30~15:30開催) アンケート結果

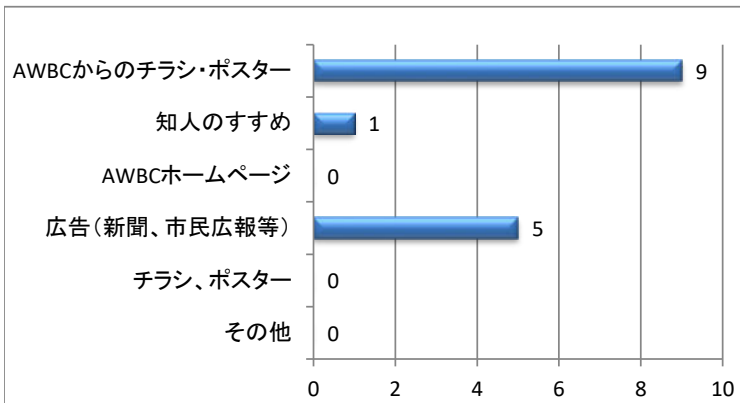
受講生 16名

回答者 14名
回答率 88%

問1. あなたのことを教えてください。



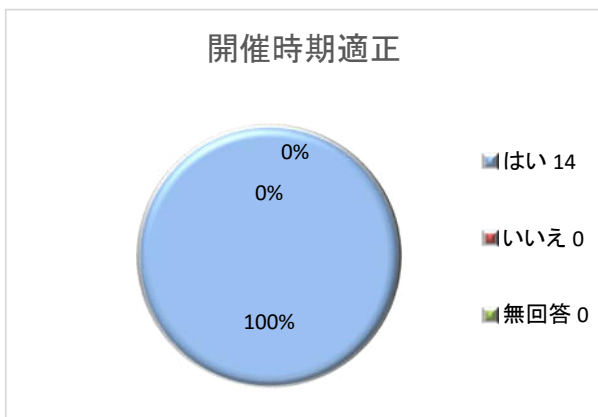
問2. 本講座の開催はどのようにして知りましたか。(複数回答可)



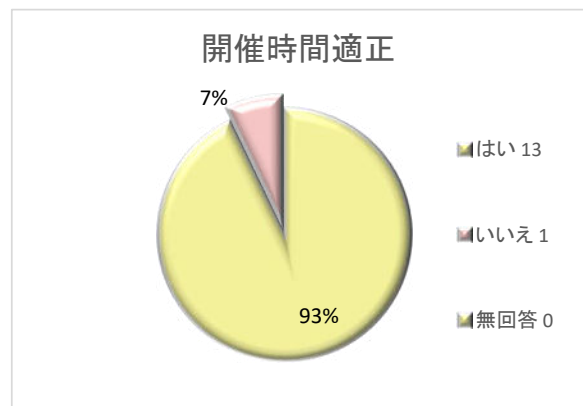
【備考】

○あさひばし

問3. 開催時期は適切ですか。



問4. 開催時間は適切ですか。



・ 2 時頃

問5. 今後希望する講座のテーマをお書きください。

- 北国の住まいの続編
- 地域史
- 建設の関係
- 旭川電気軌道の電車について
- 駅舎・線跡の跡・当時の写真
- 歴史的建造物について
- 郷土史など

問6. その他ご感想、ご意見、ご要望があればお書き下さい。

- 毎回楽しくお話を聞かせていただいています。ありがとうございます
- 旭川での暮らしのことを色々聞くことができ楽しかったです。グリーンヒルズに住んでいます
- 街の見学会などもしてみたい

旭川ウェルビーイング・コンソーシアム「あさひかわオープンカレッジ [後期]」

⑧「幼児は“できること”を通して、何が“できる”ようになっているのか？
—運動能力の向上に伴う自我の発達—」

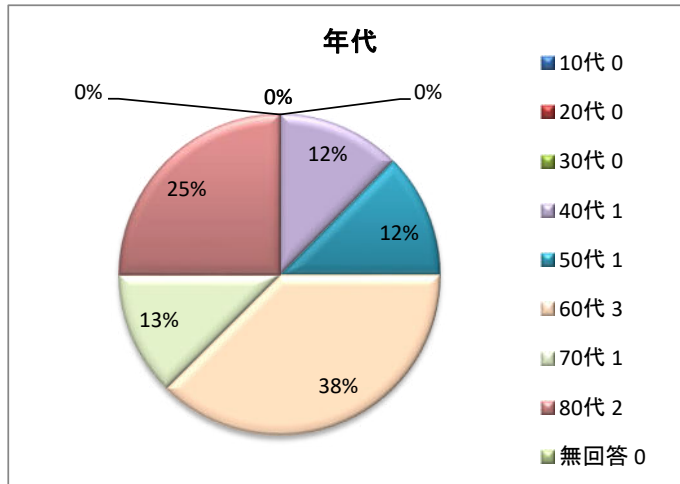
(10/19 (土) 13:30~15:00開催) アンケート結果

受講生 8名

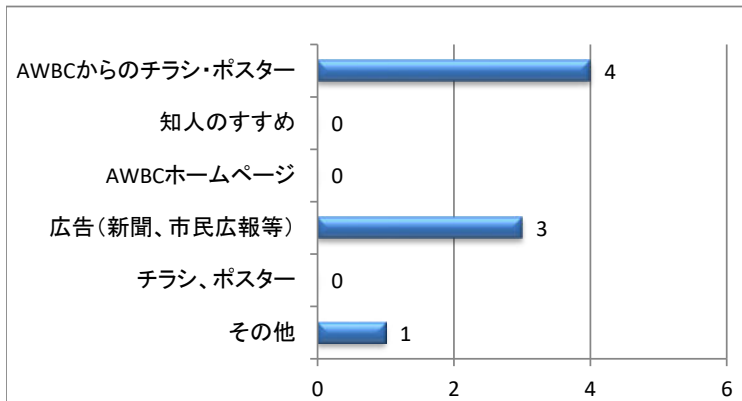
回答者 8名

回答率 100%

問1. あなたのことを教えてください。



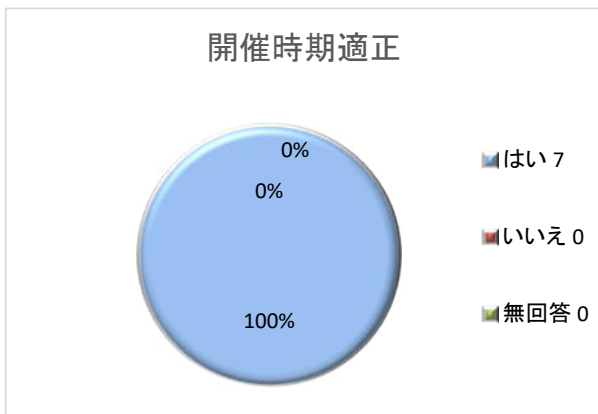
問2. 本講座の開催はどのようにして知りましたか。(複数回答可)



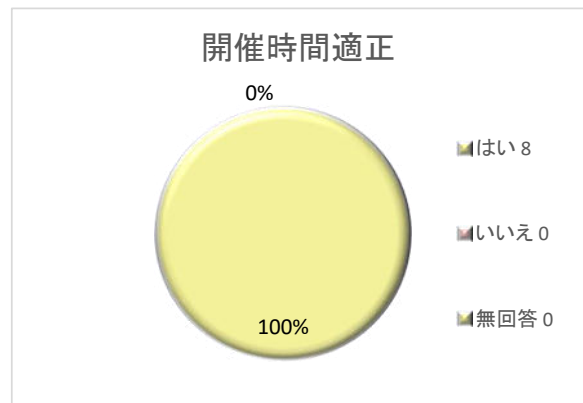
【備考】

- ・ あかり
- ・ あさひばし

問3. 開催時期は適切ですか。



問4. 開催時間は適切ですか。



問5. 今後希望する講座のテーマをお書きください。

- 様々な話を聞かせてください
- 高齢者の脳について

問6. その他ご感想、ご意見、ご要望があればお書き下さい。

- ありがとうございました。保育の方でもお話しが聞けたらと思います
- 毎回、楽しくお話を聞かせていただいています
- 休憩が欲しかったです(5分で良いので)

一般社団法人旭川ウェルビーイング・コンソーシアム
連携公開講座 2024
旭川市教育委員会共催
「あさひかわオープンカレッジ」報告集

2025年3月発行

編集・発行
一般社団法人旭川ウェルビーイング・コンソーシアム
旭川市教育委員会